

第13週 ポテンシャル

13.1 スカラー・ポテンシャル

V をベクトル場とする. スカラー場 f が V の スカラー・ポテンシャル であるとは, $V = -\text{grad } f$ が成り立つときにいう. ベクトル場 V がスカラー・ポテンシャル f を持つならば, その回転は $\text{rot } V = -\text{rot}(\text{grad } f) = \mathbf{o}$ を満たす. f, f_* が V のスカラー・ポテンシャルならば, $f - f_*$ は定数である.

定理 ベクトル場 V が空間全体で定義されていて, $\text{rot } V = \mathbf{o}$ を満たすとする. このとき V はスカラー・ポテンシャル f を持ち, V の任意のスカラー・ポテンシャルはある定数 c を用いて $f + c$ と表される.

証明 V のスカラー・ポテンシャルが存在することを示せばよい. $V = (V_1, V_2, V_3)$ と表す. $\text{rot } V = \mathbf{o}$ は

$$\frac{\partial V_3}{\partial y} = \frac{\partial V_2}{\partial z}, \quad \frac{\partial V_1}{\partial z} = \frac{\partial V_3}{\partial x}, \quad \frac{\partial V_2}{\partial x} = \frac{\partial V_1}{\partial y} \quad (1)$$

を意味する. 空間の1点 (x_0, y_0, z_0) に対し, スカラー場 f を

$$f(x, y, z) = - \int_{x_0}^x V_1(x, y, z) dx - \int_{y_0}^y V_2(x_0, y, z) dy - \int_{z_0}^z V_3(x_0, y_0, z) dz$$

で定める. このとき $\frac{\partial f}{\partial x} = -V_1$ は直ちにわかる. また

$$\begin{aligned} \frac{\partial f}{\partial y}(x, y, z) &= -\frac{\partial}{\partial y} \left(\int_{x_0}^x V_1(x, y, z) dx \right) - V_2(x_0, y, z) \\ &= - \int_{x_0}^x \frac{\partial V_1}{\partial y}(x, y, z) dx - V_2(x_0, y, z) \\ &= - \int_{x_0}^x \frac{\partial V_2}{\partial x}(x, y, z) dx - V_2(x_0, y, z) \\ &= -V_2(x, y, z) \end{aligned}$$

が, 微分と積分の順序交換および (1) の第3式を用いてわかる. 同様に

$$\begin{aligned} \frac{\partial f}{\partial z}(x, y, z) &= -\frac{\partial}{\partial z} \left(\int_{x_0}^x V_1(x, y, z) dx \right) - \frac{\partial}{\partial z} \left(\int_{y_0}^y V_2(x_0, y, z) dy \right) - V_3(x_0, y_0, z) \\ &= - \int_{x_0}^x \frac{\partial V_1}{\partial z}(x, y, z) dx - \int_{y_0}^y \frac{\partial V_2}{\partial z}(x_0, y, z) dy - V_3(x_0, y_0, z) \\ &= - \int_{x_0}^x \frac{\partial V_3}{\partial x}(x, y, z) dx - \int_{y_0}^y \frac{\partial V_3}{\partial y}(x_0, y, z) dy - V_3(x_0, y_0, z) \\ &= -V_3(x, y, z) \end{aligned}$$

が, 微分と積分の順序交換, (1) の第1式および第2式を用いてわかる. 以上から, スカラー場 f は $\text{grad } f = -V$ を満たすことがわかり, 従って f は V のスカラー・ポテンシャルである. \square

注意 上の定理において, ベクトル場は空間全体で定義されている. 一方で, 例えば空間全体から z -軸を除いた部分 (以下, D で表す) で定義されたベクトル場

$$V(x, y, z) = \left(-\frac{y}{x^2 + y^2}, \frac{x}{x^2 + y^2}, 0 \right)$$

は $\text{rot } V = \mathbf{o}$ を満たすが, D 上でスカラー・ポテンシャルを持たない. しかしながら, D の一部分 $D' = \{(x, y, z) \mid x > 0, y > 0\}$ においては, $\tan^{-1} \frac{x}{y}$ は V のスカラー・ポテンシャルである.

第13週 ポテンシャル (続き)

13.2 ベクトル・ポテンシャル

ベクトル場 V に対し, ベクトル場 W が V の ベクトル・ポテンシャル であるとは, $V = \text{rot } W$ が成り立つときにいう. ベクトル場 V がベクトル・ポテンシャル W を持つならば, その発散は $\text{div } V = \text{div}(\text{rot } W) = 0$ を満たす. W, W_* が V のベクトル・ポテンシャルならば, $W - W_*$ の回転はどの点でも 0 である.

定理 ベクトル場 V が空間全体で定義されていて, $\text{div } V = 0$ を満たすとする. このとき V はベクトル・ポテンシャル W を持ち, V の任意のベクトル・ポテンシャルはあるスカラー場 f を用いて $W + \nabla f$ と表される.

証明 前節の定理を踏まえると, V のベクトル・ポテンシャルが存在することを示せばよい. $\text{div } V = 0$ は

$$\frac{\partial V_1}{\partial x} + \frac{\partial V_2}{\partial y} + \frac{\partial V_3}{\partial z} = 0 \quad (2)$$

を意味する. スカラー場 W_1, W_2 として

$$\frac{\partial W_2}{\partial x} - \frac{\partial W_1}{\partial y} = V_3 \quad (3)$$

を満たすものを取る. このとき (2) および (3) を用いて,

$$\frac{\partial}{\partial x} \left(V_1 + \frac{\partial W_2}{\partial z} \right) = \frac{\partial}{\partial y} \left(-V_2 + \frac{\partial W_1}{\partial z} \right) \quad (4)$$

を得る. スカラー場 P, Q を

$$P = -V_2 + \frac{\partial W_1}{\partial z}, \quad Q = V_1 + \frac{\partial W_2}{\partial z}$$

で定める. このとき (4) から, $\frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial Q}{\partial x}$ がわかる. スカラー場 W_3 を

$$W_3(x, y, z) = \int_{x_0}^x P(x, y, z) dx + \int_{y_0}^y Q(x_0, y, z) dy$$

で定める. このとき

$$\frac{\partial W_3}{\partial x}(x, y, z) = P(x, y, z) = -V_2(x, y, z) + \frac{\partial W_1}{\partial z}(x, y, z) \quad (5)$$

がわかり, また

$$\begin{aligned} \frac{\partial W_3}{\partial y}(x, y, z) &= \int_{x_0}^x \frac{\partial P}{\partial y}(x, y, z) dx + Q(x_0, y, z) \\ &= \int_{x_0}^x \frac{\partial Q}{\partial x}(x, y, z) dx + Q(x_0, y, z) \\ &= Q(x, y, z) \\ &= V_1(x, y, z) + \frac{\partial W_2}{\partial z}(x, y, z) \end{aligned} \quad (6)$$

が, 微分と積分の順序交換および $\frac{\partial P}{\partial y} = \frac{\partial Q}{\partial x}$ を用いてわかる. (3), (5) および (6) から, ベクトル場 $W = (W_1, W_2, W_3)$ は $V = \text{rot } W$ を満たすことがわかり, 従って W は V のベクトル・ポテンシャルである. \square

注意 スカラー・ポテンシャルに関する定理と同様に, ベクトル・ポテンシャルに関する上の定理において, ベクトル場 V は空間全体で定義されている. V の定義域が空間全体ではない場合, V が $\text{div } V = 0$ を満たすとしてもベクトル・ポテンシャルを持つとは限らない.